

か せん ろく

何羨録

釣之何羨録

祭魚洞文庫
5-0974
藏書架票

趣味としての釣りが日本で発展をはじめたのは、江戸時代といわれています。最初は武士の間で、しだいに庶民へと浸透し発展しました。

現存する日本最古の釣りの専門書『何羨録』が書かれたのも江戸時代、享保八(1723)年でした。陸奥国黒石藩三代藩主津軽采女の作です。采女が江戸湾でのキス釣りなど遊びの釣りについて記したものでした。江戸湾でのキスの釣り場、釣具や餌、釣期や気象について記しています。

完

知幾千萬

蟹沼

三百年の時を駆け抜ける釣りの極意

A552 T3

